

あらゆる対応を想定する

～ 災害ボランティア研修会 ～



ブラインド・ウォーキング（目隠し体験）の様子

3月11日、スマイルを会場ににかほ市災害ボランティア研修会が行われました。これは、にかほ市社会福祉協議会が東日本大震災の教訓を今後活かそうと行っており、今年は3月11日に合わせ開催し、約60人の市民が参加しました。

参加者は、炊き出し訓練のほか、車いすや目隠しをした状況での避難などに取り組み、障がいなどに応じた対応を学びました。また、市内には特別な配慮がなされた二次的避難所「福祉避難所」がないことなどにも触れ、現状の問題点などについても話し合われました。

にかほの10年後を作ろう！

～ 人づくり・まちづくりセミナー ～

3月13日、金浦公民館で「人づくり・まちづくりセミナー」の成果発表会が行われました。このセミナーは東北公益文科大学（山形県酒田市）協力のもと、「にかほの10年後を作ろう」をテーマに全4回のコースで行われ、市内外の若者17人が受講しました。

この日は、受講者が4つの班に分かれて市の魅力を活かしたアイデアのプレゼンテーションが行われ、廃校を利用したイベントの企画やミネラルウォーターの販売提案などの意見が出されました。地域活性化のヒントを得ようとメモを取る参加者の様子が見られました。



新しい視点からの地域活性化方法を模索

思い出に残る演奏を

～ スプリングコンサート ～



このメンバーで演奏する最後の音楽

3月15日、仁賀保勤労青少年ホームを会場に、平沢小学校吹奏楽部によるスプリングコンサートが行われました。毎年この時期に開催しているこのコンサートは、6年生が最後の演奏会となるため、家族や友人、先輩たちと多くの来場者が駆けつけました。

コンサートは、クラシック、アンサンブル、ポップの3部構成で、ソロパートでは気持を込め演奏し会場を魅了しました。また、アンコールでは、昨年の甲子園応援ソング「オモイダマ」を演奏し、吹奏楽部員の集大成として心に残る演奏となった様子でした。



新しい生き方の実践、回復と成長を目指す場所

自らの体験を基に語る

～ 女性のつどい ～

3月1日、にかほ市女性団体協議会主催の「女性のつどい」がスマイルを会場に開催され、薬物依存症回復施設「秋田ダルク」の代表平原薫氏による「薬物依存の現状と更正保護について」と題した講演が行われました。

実体験を基にした講演では、薬物依存の怖さや、秋田ダルクの共同生活から薬物に依存しない生活の訓練や社会復帰のための活動を紹介。また、危険ドラッグによる事件が増加している状況について、「他の薬物より悪質で法律の規制をすり抜けている」と訴え、聴衆した参加者は他人事とは思えない真剣な表情で聞き入りました。

将来の樹形をイメージ

～ いちじく剪定実演会 ～

3月4日、大竹地区のいちじく畑で由利地域振興局農業振興普及課の佐藤智則氏を講師に招き、いちじく剪定実演会が行われました。

いちじくは光を多く必要とする果樹のため、幼木・成木の剪定は、果実の品質や管理作業に大きく影響する発芽前の重要な作業となります。実演では、幼木は開心自然形（三本仕立）に近い樹形が理想で、主となる枝は長めに、伸ばしたい方向の芽の上で切り詰めるなど剪定のポイントが説明されました。講師の大胆な剪定には、参加者から驚きの声もありました。



基本は下芽か横芽の上部で切り詰める

ボランティア活動の成果

～ 車椅子などの寄附 ～

3月12日、金浦小学校児童が各家庭から集めたアルミ缶を売却し、その収益金で車椅子を購入し「特別養護老人ホーム陽光苑」に寄贈しました。6年生の本多海希さんは「卒業前に渡すことができた。金浦小みんなのおかげです」と2年間の活動の成果を話してくれました。

また、13日にも上浜小学校児童が「特別養護老人ホーム蕉風苑」にアルミ缶を収集し売却した収益金5万円を寄附しました。贈呈式では、施設入居者が児童から目録を受け取ると、「ありがとう」と涙ながらにお礼の言葉を述べていました。



上浜小の児童ら



金浦小の児童ら